

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：井澤 幸三 作成日：2025年1月24日

1. 教育の責任

「学修活動を通じて、創造的な構想力と表現力を修得し、文化的に人間生活を考える素養を備えた感性豊かな人材を養成する」とした建築&芸術学部の教育目標をふまえて、『自分らしい表現とは何か』を考えることで構想力の、作品制作を通じて課題解決能力の向上に努める。

「絵画表現Ⅰ（具象絵画表現Ⅰ）」（実技、デザイン・造形美術メジャー選択必修科目、春学期、2単位、15名）

「絵画表現Ⅱ（具象絵画表現Ⅱ）」（実技、デザイン・造形美術メジャー選択必修科目、秋学期、2単位、16名）

「絵画技法研究Ⅰ（現代絵画表現Ⅰ）」（実技、デザイン・造形美術メジャー選択必修科目、春学期、2単位、15名）

「絵画技法研究Ⅱ（現代絵画表現Ⅱ）」（実技、デザイン・造形美術メジャー選択必修科目、秋学期、2単位、18名）

「ゼミナールⅠ」（演習、デザイン・造形美術メジャー必修科目、春学期、2単位、7名）

「ゼミナールⅡ」（演習、デザイン・造形美術メジャー必修科目、秋学期、2単位、6名）

卒業制作（絵画）（実技、デザイン・造形美術メジャー必修科目、通年、3名）

2. 教育の理念

「豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成する」という本学の教育目的をふまえ、芸術を通じて、自己の人生観、世界観を広げ、多様な社会の実相に正面から対処できる能力を養うことを私の教育理念としている。

芸術の発展は人間が生み出す様々な観念・概念・価値観に批判的な光を当てることによって、その可能性を広げてきた。また、私たち各々の自己を確立することはすなわち自身の芸術を確立することである。これらの難題に挑戦する姿勢を伝えていきたい。

3. 教育の方法

（1）授業実践の工夫

「絵画表現Ⅰ・Ⅱ（具象絵画表現Ⅰ・Ⅱ）」および「絵画技法研究Ⅰ・Ⅱ（現代絵画表現Ⅰ・Ⅱ）」は300番科目としてすでに絵画理論・実技の基礎を修得済みの履修者が対象である。したがって、表現力の向上は各々に対する個人指導で行い、全体の指導のなかでは、科目の目的である、履修学生各々が自身の力で主題を立案し創造するためのヒントとなる多様な方法の提示を行う。しかしながら、常に、固定的な方法論で考えるのではなく柔軟な思考が肝要であることを伝える。そのためには、自身で考え判断する癖をつけ、判断の基準は常に自分自身であることを確認させる。

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」は制作者にとって常に最重要課題である『何を描くべきか』『自分らしい表現とは何か』を考えるために、まずはワークシート等で言葉による振り返りを行う。考え方の違う一人一人に向き合い、話し合いを続けながら個性の抽出に繋げる。課題はすべて自由課題である。これまで経験してきた授業における制作は課題設定から準備・制作・発表に至るまである程度用意されたルールの上を歩いてきた。これからは『制作者』としてすべて自身の手で行わなければならない。それを実践する入り口に本科目があり、制作を通してそのことの自覚を促す。

（2）総合的な学修成果達成のための工夫

「絵画表現Ⅰ・Ⅱ（具象絵画表現Ⅰ・Ⅱ）」および「絵画技法研究Ⅰ・Ⅱ（現代絵画表現Ⅰ・Ⅱ）」においては、課題ごとに合評会を行っている。合評会では、全員の作品を並べ、一人ずつ、自分の作品について①主題②コンセプト③表現の工夫などについてプレゼンテーションする。決められた課題の中でいかにして『自分らしさ』を出せるかということをポイントにおいて全員でディスカッションする。自分の作品についてプレゼンテーションすることは否応なく作品について深く考えることとなる。深く考えることができれば作品の中身の質を上げることができ、次の自身の課題が明確になる。

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、学外の展覧会（兵庫独立展など）に出品する。学外の展覧会で発表することで、自身のレベルを実感することができる。展覧会後は発信することに意欲を感じ、更なる向上を目指すことができる。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：井澤 幸三 作成日：2025年1月24日

4. 教育の成果

各科目の授業では、課題ごとに合同批評会（合評会）を行い、学生一人ひとりの作品発表により、学生同士、自己評価・相互評価を行う。「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業制作」では大手前アートセンターギャラリーにて作品発表を行うほか、学外の展覧会（兵庫独立展など）に出品し、外部評価を得ている。

話題提供：「学修成果を可視化し質保証する試み」私立大学情報教育協会主催『被服学・美術デザイングループ分野連携アクティブ・ラーニング対話集会』平成 28(2016)年 12 月 4 日開催、大妻女子大学千代田キャンパス本館。定例の私立大学情報教育協会分野別教育研究集会において、表題のテーマについての本学のプレゼンテーション関連教育事業の取り組みを話題提供した。

上記私立大学情報教育協会分野別教育研究集会においては美術デザイングループ委員として毎年研究集会の運営に携わっている。（2024年度は2024年12月21日開催・オンライン）

5. 改善への努力と今後の目標

授業アンケート等の内部評価において、「創造力」「論理的思考力」について私としては重視した設定であったのに対し、学生自己評価では低い水準だったのが今後の課題。また、コロナ禍の時期に制限せざるを得なかった学生の自習機会等の制作環境を整備したにも関わらず、以前に比べて自習学生が限られている等自ら学修しようとする学生が少なく、学生の学修意欲向上に向けた仕掛けが必要である。発表機会を増やすことや発表時などでの振り返りによる課題の明確化などを強化してモチベーションの向上に繋げたい。

【添付資料】

- ①「構成研究（風景・空間）01」2020-5-11（「具象絵画表現Ⅰ」PowerPoint 教材）
- ②「構成研究（風景・空間）02」2020-5-11（「具象絵画表現Ⅰ」PowerPoint 教材）
- ③「言葉のイメージ」課題構想シート（「具象絵画表現Ⅱ」PDF 教材）